

The Word Today

No.1022 私たちの父 その1

ポール・シュレーダー牧師

神の子どもである私たちは、祈るというすばらしい特権を持っています。祈りは、旧約聖書と新約聖書の全体を通して教えられています。今週と来週の2回にわたって、イエスが私たちに教えられた祈りについて学びたいと思います。弟子たちがイエスのところに来て、「主よ。私たちに祈りを教えてください」と言いました。彼らは、バプテスマのヨハネが弟子たちに祈りを教えたことを知り、自分たちもどう祈ればよいかをイエスに教えてもらいたいと思ったのです。これは、ルカの福音書 11 章にあります。そこで、イエスは、「祈るときには、こう言いなさい」と、私たちが「主の祈り」と呼ぶ祈りを教えられました。

私は、休暇などであちこちの州に行き、いろいろな教会を訪ねましたが、その時に、人々が主の祈りをただすらすらと唱えているだけの場合が非常に多いことに気づかされています。とても早口で、ほとんど何も考えないで、唱えます。もちろん、それは本当に祈っていることではありません。棒暗記した文言を繰り返しているにすぎず、そこには心も意味もありません。

ある一つの教会では、主の祈りを大変な早口で祈っていました。正常な精神の人は、その速度についていけないと思いました。たとえば、「御国が来ますように」という一つの文を取っても、それほどすばやく言ったのでは、その中に含まれる意味や何を神に祈っているのかを考えることはできません。正常な精神の状態、非常な早口で祈りの言葉を唱えつつ、祈っている言葉の意味に心を向けることのできる人はいません。

御国あるいは神の国には、3つの意味が含まれています。天におられる神は、神の国の力によって、すべてを治め、支配しておられます。すべてを支配しておられる神に、主の祈りの中で、「御国が来ますように」と言うのは、「神様。あなたが天でなさっておられるように、この地においても、あなたが望まれることをなしてください。私たちの人生においても、そのようにしてください」と祈っているのです。それだけではありません。この短い祈りの言葉には、さらに多くのことが意味されています。神の国とは、キリスト教会のことでもあります。「御国が来ますように」とは、「あなたの神の国がもっと大きくなりますように。人々がクリスチャンの集まりに加わり、キリスト教会の一部になりますように」という祈りでもあるのです。

それだけではなく、神の国は、栄光の神の国のことでもあります。栄光の神の国とは、私たちが永遠に神と共に過ごす天の国のことです。主の祈りの中で、

私たちが祈る、「御国が来ますように」には、聖書の終わりに書かれている、「主イエスよ。来てください」の意味もあるのです。「御国が早く来ますように。イエス様の再臨を待っています。主と共に天国で永遠に生きることのできるように、主が来られるのを待ちわびています」との意味です。

早口で主の祈りを唱えたのでは、このような深い意味を思いながら、心をこめて祈ることはできません。

今日、この番組を聞いている皆さんすべてに申し上げたいことがあります。イエスが教えられた主の祈りを祈るときは、一つ一つの文を、ゆっくり、意味を考えながら、祈ってください。様々な側面の神への願いを神が聞いてくださるように、祈っている言葉の意味に心と思いを集中してください。何かほかのことを考えながら、丸暗記した言葉をただ唱えることのないようにしてください。心から、思いを込めて、ゆっくり、意味を考えながら、祈ってください。

本題の主の祈りに行く前に、祈りということについて、もう少し考えたいことがあります。異教の宗教も何らかの祈りを持っています。多くの異教の宗教は賛美を歌わないというのは、興味深いことだと思います。それに対して、キリスト教会はいつも賛美を歌います。私はルーテル派の牧師ですが、ルーテル派はよく歌うことで知られています。かつては、詩篇の歌だけではなく、礼拝式文も歌っていました。私が牧会を始めた頃は、聖餐式の式文も詠唱していました。最近では、現代的になり、そのようなことをせず、礼拝式文のほとんどを読みます。かつては、旧約聖書の人々が詩篇を歌ったように、私たちも歌ったものでした。詩篇は、実は、旧約聖書の人々の讚美歌集だったのです。

祈りには多くの方法があります。私たちは、口にしている祈りの言葉を大事にし、何を祈っているのかを考えなければなりません。また、その意味することに対して責任を持たなければなりません。誠実に、口にしている祈りの言葉に思いを向けていなければなりません。祈りに関して、異教の宗教がしていることについて少し考えてみましょう。異教の宗教の中には、マニ車という、中空の円筒形の道具を祈りに用いるものがあります。祈りの文句を書き、それをマニ車の中に入れ、それを棒に刺して、手の中で回します。このマニ車が回るたびに、祈りがささげられていると、人々は信じているのです。もちろん、それはまったくのナンセンスです。ばかげています。また、中国やインドにある、異教の宗教の僧院やその他の場所に行った時のことを思い出します。そこには、小さな布や紙を結び付けた灌木や木がありました。その布や紙は袋状になっていて、祈りを書いた神と小さな石が入れられていました。風が吹くと、祈りの袋が風に揺れるので、揺れるたびに祈りがなされていると、人々は信じていました。これもまったくのナンセンスです。そのようなことに意味はなく、実にばかげています。

聖書は、言葉数が多ければ聞かれると間違っ信じている人たちがいることを記しています。もちろん、多くの言葉によって神の注意を引く、というのはナンセンスで、そのようなことはできません。けれども、気をつけなければならないことがあります。ルカの福音書 11 章で、イエスは忍耐強く祈る必要があることを語っておられます。真夜中にお客が来るという状況をたとえとして、そのことを話されました。真夜中とは奇妙だと思いかもしれませんが、その状況を思い浮かべてください。その時、その家の主人は、何か食事を出さなければと思いました。旅の途中なのだから、何か食べさせなければ、と。けれども、家には何もありませんでした。その日の食料は全部使っていました。その日に焼いたパンはもう食べてしまっていました。それで、隣の家に行き、パンを 3 つ借りようと思いました。これは、ルカの福音書 11 章 5 節以下に記されています。その隣人は、とても驚きました。真夜中で、もう戸を閉めてしまっていたからです。彼は、パンを借りに来た隣人に言いました。「めんどろをかけないでくれ。もう戸締りもしてしまっし、子どもたちも私も寝ている。起きて、何かをやることはできない。」けれども、戸をたたき続け、助けを求め続けるなら、その人は起きてくれる、とイエスは言われます。子どもたちもすっかり目を覚ましてしまっし、それ以上わずらわされたくないの、その隣人を追い払うためにも、パンを貸してくれる、と。

また、聖書には、執拗に頼み続ける女性を追い払うために、彼女に助けの手を差し伸べる裁判官のことも書いてあります。

意味もなく同じことを繰り返すのは無駄なことだから、そのようなことをしないよとの警告が、聖書には書かれています。けれども、一方で、熱心に、執拗に祈り求める必要はあります。聖パウロは、イエスのもとに 3 度行き、彼の病気だと思われる問題から解放してくださいと頼みました。ついに神は彼に言われました。「わかった。あなたはわたしに 3 度祈った。それに対する答えをあげよう。もうそのことでわたしに祈ってはならない。あなたが願っているいやしをわたしは与えない。わたしの恵みは、あなたに十分だ。」

あなたは、自分が何を祈り求めているかについて、はっきりしていなければなりません。神は、真実な心で、熱心に、繰り返し求めることを拒んでおられるのではありません。神は、私たちが本気で、熱心に求めることを、求め続けることを、願っておられます。けれども、次の区別をしておかなければなりません。神は私たちが本気で熱心に祈ることを願われますが、ただ単に言葉を並べ立てるだけの、繰り返しの祈りは願われなないので。

祈りについて、注意してください。最初に申し上げたように、この祈りのテーマで、来週もお話しし、祈りについてもう少し学びましょう。それまでに、マタイの福音書とルカの福音書に記されている、主の祈りを読んでおいてくだ

さい。神の祝福がありますように。祈りをもって神に近づいてください。